

# 奈良にゆかりのある遺伝資源の保存と活用について

## ～地域で受け継がれてきた農作物の種子を集めています！～

当センターでは、平成28年度に、「ジーンバンク」を大和野菜研究センターに配置し、奈良に歴史的ゆかりのある遺伝資源の収集、保存および特性調査などの活動を継続して行っています。

### 1. 背景と目的

本県には、地域に根ざし、その土地の食文化とも融合しながら受け継がれてきた農作物が数多く存在します。これらは貴重な遺伝資源ですが、市販品種と比べて栽培が困難であったり、市場流通に向かなかつたりするため、栽培が途絶えてしまう危機に瀕しているものも多いのが現状です。そこで、今はマイナーとなってしまった品種を復活させたり、新品種を生み出したりするために、そのもととなる遺伝資源を収集・保存する拠点「ジーンバンク」を大和野菜研究センター（奈良県宇陀市）に設置しました。

### 2. ジーンバンク活動の概要

#### ①遺伝資源の収集

県の関係機関と連携して、地域で古くから自家採種されている農作物の情報を集めています。センターは寄せられた情報をもとに、採種されている方から入手先やどのように利用してきたか等を聞き取り調査し、本活動の趣旨に賛同を得た場合には種子の提供を受けています。

#### ②遺伝資源の保存

受け入れた種子は、定期的に品質調査と発芽率調査を実施します（図1）。発芽率が低下した場合は栽培して新しい種子を採り直しています。種子の発芽能力を長期間保つために、専用の容器に封入し、温度5℃、相対湿度30%に制御した施設内で保存しています（図2）。

#### ③遺伝資源の特性調査

遺伝資源の活用を図るためには、どのような特性をもつ品種であるか調査する必要があります。これまでに、スイカ、メロン類、ツケナ類、マメ類等の特性を調査してきました（図3）。



図1 品質・発芽率調査（左）と発芽した種子（右）



図2 保存施設（左）と種子保存専用容器（右）



図3 保存されていたメロン類の特性調査

### 3. 遺伝資源情報の提供のお願い

遺伝資源の収集は、県民の皆様の情報が頼りです。自家採種してきた特徴のある農作物の種子について、情報をお持ちでしたら、大和野菜研究センターまでご一報いただくと幸いです。（大和野菜研究センター 峯 圭司）

大和野菜研究センター（宇陀市榛原三宮寺125）  
TEL：0745-82-2340（担当：峯）

奈良県農業研究開発センター  
ニュース vol.160

2021年6月30日発行

編集発行 奈良県農業研究開発センター  
TEL 0744-47-4491(代)  
FAX 0744-47-4851  
URL <http://www.pref.nara.jp/1761.htm>  
印刷 小川印刷工業株式会社